

地域医療支援病院業務報告書

2024年10月3日

群馬県知事 山本 一太 様

開設者 〒105-8521
住 所 東京都港区芝大門 1-1-3
氏 名 日本赤十字社
社長 清家 篤
電話番号 03-3438-1311

医療法第12条の2の規定により、令和5年度の業務に関して下記のとおり報告します。

記

1 病院の開設者の住所及び氏名

住所	〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
氏名	日本赤十字社 社長 清家 篤

注 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記載すること。

2 病院の名称

前橋赤十字病院

3 病院の所在地

〒371-0811 群馬県前橋市朝倉町 389-1 電話 (027) 265-3333

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合 計
22 床	6 床	0 床	0 床	527 床	555 床

5 病院の施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	(主な設備) ICU ベッド、生体情報モニタ、血液濾過透析装置等 病床数 24 床
化学検査室	(主な設備) 尿化学分析装置、血算装置、生化学分析装置、血液型分析装置等
細菌検査室	(主な設備) 血液培養自動分析装置、安全キャビネット等
病理検査室	(主な設備) 自動染色装置、自動封入器等
病理解剖室	(主な設備) 感染防止用解剖台等
研究室 (大中小会議室、セミナー室)	(主な設備) 机、椅子、パソコン、ホワイトボード等
講義室 (講堂)	室数 1 室 収容定員 500 人 (最大)
図書室	室数 2 室 職員図書室 蔵書数 雑誌 55,792 冊 製本 791 冊 図書 7,029 冊程度 患者図書室 蔵書数 2706 冊程度
救急用又は患者 搬送用自動車	主な設備) 保有台数 2 台
医薬品情報管理室	床面積 42.72 m ² (専用室)

注 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記載すること。

(その2) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績

地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

地域医療支援病院 紹介率	95.2%	算定 期間	2023年4月1日～2024年3月31日
地域医療支援病院 逆紹介率	113.1%		
算出 根拠	A：紹介患者の数（開設者とは直接関係のない他の病院又は診療所から紹介状により紹介された数。初診の患者に限る。）		11,975人
	B：初診患者の数		12,583人
	C：逆紹介患者の数（開設者と直接関係のある他の病院又は診療所に紹介した患者を除く。）		14,236人

- 注 1) 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記載すること。
- 2) 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記載すること。
- 3) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記載すること。

(その3) 救急医療を提供する能力を有することを証する書類

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職種	氏名	勤務の態様	勤務時間	備考
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
		《別紙1》	常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		
			常勤 専従 非常勤 非専従		

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	0床
専用病床	72床 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3A01～3A18 (24床) ・ 3B01～3B18 (24床) ※高度救命救急センター病棟 ・ 3C01～3C12 (12床) ・ 3D01～3D12 (12床) ※ICU

注 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査及び治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間 使用の可否
【1階】 高度救命救急 センター外来	1,358.94㎡	(主な設備) 高機能ストレッチャー、無影灯、シーリングコラム、超音波診断装置、生体情報モニタ、人工呼吸器、除細動器、救急カート 等	可
【1階】 放射線診断 ※高度救命救急 センター外来内	292.65㎡	(主な設備) 一般撮影室：島津製作所社製一般撮影装置 (UD150L-40) /CT室：キャノンメディカルシステムズ社製CT (Aquilion PRIME)、造影剤注入装置、生体情報モニタ /MRI室：フィリップスジャパン社製MRI (interal.5 T)、造影剤注入装置、生体情報モニタ /血管撮影室：キャノンメディカルシステムズ社製血管撮影装置 (Infinix Celeve-i) +CT (Aquilion PRIME)	可
【3階】 ICU	1,398.11㎡	(主な設備) 高機能ベッド、シーリングペンダント、生体情報モニタ、回診用X線撮影装置、持続的血液濾過透析装置、人工呼吸器 等	可
【3階】 高度救命救急 センター病棟	1,938.94㎡	(主な設備) 低床電動ベッド、生体情報モニタ 等	可
【3階】 手術室	2,908.39㎡	(主な設備) 電動油圧式手術台、無影灯、シーリングペンダント、麻酔器、電気メス、手洗装置、シーメンス社製術中CT装置 (SOMATOM Definition AS OPEN)、フィリップス社製ハイブリッドOR装置 (Azurion 7 M20) 等	可
【3階】 放射線診断	561.05㎡	(主な設備) 一般撮影：富士フィルムメディカル社製回診用X線撮影装置 (FUJIFILM DR CALNEO AQRO)、輸液ポンプ、シリンジポンプ 等 /キャノンメディカル社製CT (Aquilion PRIME)、造影剤注入装置、バイタルサイン監視モニタ /血管撮影01：フィリップスジャパン社製血管撮影装置 (Allura Clarity FD10-10)、大動脈内バルーンポンピングシステム、経皮的心肺補助装置、血管内エコー装置 /血管撮影02：シーメンスヘルスケア社製血管撮影装置 (Artis zeeFC) /血管撮影03：シーメンスヘルスケア社製血管撮影装置 (Artis zeeBA Twin)	可

【1階】 内視鏡	617.45㎡	(主な設備) 内視鏡装置一式、上部消化管ビデオスコープ、大腸ビデオスコープ、気管支ビデオスコープ、内視鏡洗浄消毒装置、生体情報モニタ等	可
【1階】 生理検査	560.67㎡	(主な設備) 超音波診断装置、心電図、肺機能装置、聴力検査ボックス、筋電図装置、脳波装置、トレッドミル、エルゴメーター、重心動揺計等	可
【2階】 検体検査 微生物検査等	741.44㎡	(主な設備) 尿化学分析装置、血算装置、生化学分析装置、血液型分析装置等、血液培養自動分析装置、安全キャビネット、遠心分離器等	可
【2階】 病理検査	276.66㎡	(主な設備) 自動染色装置、自動封入器、包埋ブロック作成装置等	可

4 備考

--

注 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。
既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき群馬県知事の救急病院の認定を受けている病院又は救急医療対策の整備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数（ドクターカー含む）	6,273人 (3,666人)
ドクターヘリにより搬入した救急患者の数（防災ヘリ含む）	412人 (155人)
上記以外の救急患者の数	4,641人 (1,673人)
合 計	11,326人 (5,494人)

注 1) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記載すること。
2) 括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	2台
ドクターヘリ	1機

(その4) 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用（共同利用）のための体制が整備されていることを証する書類

1 前年度の共同利用の実績

① 前年度において共同利用を行った医療機関の延べ数：610件 内訳：高額医療機器 610件、開放型共同診療 0件 ② ①のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数：610件 ③ 共同利用に係る病床の病床利用率：0%

注 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率等を明記すること。

《別紙2》

2 共同利用の範囲等

① 共同利用を行った建物、設備、器械又は器具の名称： 共同診療病床、CT、MRI、PET-CT、骨シシ等 ② 開放病床： 11床
--

注 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

ア 共同利用に関する規定の有無 有・無
 イ 利用医師等登録制度の担当者 氏名：高橋 佑介
 職種：事務職

注 共同利用に関する規定がある場合には、当該規定の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住 所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との 経営上の関係
《別紙3》				

注 当該病院と同一の二次医療圏に所在する医療機関のみ記載すること。

常時共同利用可能な病床数	11床 (4A06、4B10、4C07、5A15、5B13、5C15、 5D15、6A15、6B15、6C15、6D15)
--------------	---

(その5) 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1 研修の内容

① 医学又は医療に関する講演会（学術講演会）： （地域連携学術講演会、地域がん拠点病院講演会）	14 回
② 地域の医師等を含めた症例検討会： （口唇口蓋裂差連携パス研究会、大腿骨頸部骨折地域連携パス連携病院研究会、緩和ケア連携の会等）	10 回
③ その他の研修会：	0 回

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	24 回
(2) (1) の合計研修者数	1,149 人(うち二次医療圏 314 人)

注 1) 研修は、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものであること。

2) (2) には、前年度の研修者の実数を記載すること。

3 研修の体制

- ア 研修プログラムの有無 有 無
 イ 研修委員会設置の有無 有 無
 ウ 研修指導者

修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験年数	特 記 事 項
				年	
				年	
《別紙 4》				年	
				年	

注 研修指導者のうち、教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
講堂 (1F)	383.64 m ²	(主な設備) 机、椅子、プロジェクター、音響設備 等
大会議室 (2F)	212.08 m ²	机、椅子、ホワイトボード
中会議室 1 (2F)	49.56 m ²	机、椅子、ホワイトボード
中会議室 2 (2F)	49.07 m ²	机、椅子、ホワイトボード
小会議室 1 (2F)	20.16 m ²	机、椅子、ホワイトボード

小会議室 2 (2F)	21.28 m ²	机、椅子、ホワイトボード
小会議室 3 (2F)	22.12 m ²	机、椅子、ホワイトボード
小会議室 4 (2F)	21.28 m ²	机、椅子、ホワイトボード
小会議室 5 (2F)	28.38 m ²	机、椅子、ホワイトボード
小会議室 6 (2F)	36.57 m ²	机、椅子、ホワイトボード
ゼミ室 1 (2F)	23.59 m ²	机、椅子
ゼミ室 2 (2F)	21.82 m ²	机、椅子
ゼミ室 3 (2F)	23.71 m ²	机、椅子
ゼミ室 4 (2F)	27.63 m ²	机、椅子
ゼミ室 5 (2F)	21.39 m ²	机、椅子
職員図書室	165.50 m ²	机、椅子、パソコン 等

(その6) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院 長 中野 実
管理担当者氏名	事務部長 鈴木 典浩

記録の種類	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方箋、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状及び退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約	1. 病院日誌（総務課） 2. 各種診療日誌（看護部） 3. 処方せん（薬剤部） 4. 手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約等（診療情報管理室） 5. 診療情報提供書（地域医療連携課）	いずれも ターミナルレジット 下3桁
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携課
	救急医療の提供の実績	救急災害事業課
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携課 診療情報管理室
	閲覧実績	診療情報管理室
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携課

注1) 「保管場所」欄には、当該記録を保管する部署名を記載すること。

2) 「診療に関する諸記録」については、個々の記録について記載する必要はなく、諸記録の分類方法及び全体としての管理方法の概略を記載すること。

(その7) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	院長 中野 実
閲覧担当者氏名	診療情報管理室 田村 直人
閲覧の求めに応じる場所	患者支援センター、各科外来、診療情報管理室
閲覧の手続の概要 《別紙5》	

前年度の総閲覧件数		131 件
閲覧者別	医師	17 件
	歯科医師	0 件
	地方公共団体	0 件
	その他	114 件 (診療録開示 114 件)

注 閲覧件数については、前年度の延べ件数を記載すること。

(その8) 委員会の開催の実績

委員会の開催回数	6回
委員会における議論の概要	
1. 前橋地区地域医療支援病院合同運営委員会 (1) 開催日時：令和6年2月13日（水） (2) 開催方法：文書審議 (3) 出席者：4病院共通の委員10名 4病院とは、前橋市内の地域医療支援病院 前橋赤十字病院、県立心臓血管センター、群馬県済生会前橋病院、JCHO群馬中央病院 (4) 協議事項：各病院の前年度地域医療連携事業報告（地域医療機関との連携状況、紹介患者に関する紹介率及び逆紹介率、共同利用等報告救急医療提供の報告、地域医療従事者への研修実績報告、救急受入れ拒否率の報告等）ののち、4病院共通とした質疑応答	
2. その他 二次医療圏である前橋市医師会の病診連携担当理事及び在宅医療担当理事を招いて、院内各職種・職場からなる地域医療連携委員会を開催した。 (1) 開催日時：令和5年4月～令和6年3月までの5回開催 (2) 開催方法：WEB会議 (3) 出席者：委員15名（院外3名、院内12名）、事務局3名 (4) 協議事項：開催前月の紹介率と逆紹介率、地域医療機関との連携に係る問題事案の解決、前橋市医師会から当院への要望ほか	

注 委員会の開催回数及び委員会における議論の概要（開催日、開催場所、協議事項、報告事項等）については、前年度のものを記載すること。

(その9) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	相談窓口・相談室・その他 ()
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	メディカルソーシャルワーカー
患者相談件数	20,236件
患者相談の概要	
①相談の類型	
1. 受診・受療	1,313件
2. 経済的問題	379件
3. 制度活用	2,228件
4. 入院療養生活	222件
5. 退院支援	13,851件
6. 在宅療養・介護	870件
7. 医療者との関係	84件
8. 家族関係	670件
9. 日常生活	1,709件
10. 就労・就学	602件
11. 身元保証・権利擁護	331件
12. 死後対応	33件
13. その他	163件
②相談に基づき講じた対策等	
患者さんや家族の訴えを充分聴取し、院内と院外の関係機関と連携や協同をしながら支援を行った。	

注 1) 患者相談件数については、前年度の延べ件数を記載すること。

2) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が特定されないよう配慮すること。

(その10) その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">評価を行った機関名、評価を受けた時期 <p>(1) 公益財団法人 日本医療機能評価機構 一般病院2 機能種別版評価項目 3rdG Ver2.0 2019年10月4日交付</p> <p>(2) 日本規格協会ソリューションズ株式会社 マネジメントシステム JISQ9001 2022年 1月21日交付</p>	

注 病院の機能に関する第三者による評価は、公益財団法人日本医療機能評価機構等によるものであること。

2 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">情報発信の方法、内容等の概要 <p>毎月定期的に医療圏内外の医師会員、歯科医師会員や登録医苑に、また必要に応じて県内の病院宛に必要な地域医療連携情報提供を行っています。またホームページを活用した広報のほか、健康教室を利用して、広く市民や医療従事者に対して、当院の最新の治療内容についてご説明しています。</p>	

3 退院調整部門

退院調整部門の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">退院調整部門の概要 <p>退院後の療養や生活に支援の必要となる患者さんを入院早期にスクリーニングし、割り出し、適切な介入をスムーズに行うプロセスを、看護師とMSWが協働して行っている部門です。転院、在宅のいずれにおいても、地域にある社会資源と患者さん、家族を結びつけ、コーディネートしております。</p>	

4 地域連携を促進するための取組み

<p>地域連携クリティカルパスの策定</p>	<p>有・無</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病病⇒①脳卒中、②大腿骨頸部骨折 (2) 病診⇒①糖尿病、②骨粗鬆症、③PCI、④気管支ぜんそく、⑤睡眠時無呼吸症候群 <ul style="list-style-type: none"> ⑥口唇口蓋裂、⑦周術期口腔機能管理、⑧胃癌、⑨大腸がん、⑩肝臓がん ⑪乳がん、⑫肺がん、⑬小児頭部外傷 ・ 地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み <p>郡市医師会、郡市歯科医師会、登録医、連携病院からの支援と共同運営に取り組んでいます。周術期口腔機能管理では共同開催による講習会や歯科医師会例会や定例会等での説明会や出前講習会を開催し、糖尿病連携など新規参加の連携パス提携医にはスタッフによる説明訪問をしています。また定期的に連携パス提携医や院外医師を対象に、症例検討や研修会を開催し、パス説明や報告を行っています。</p> 	